

口は健康のもと Vol.148

高齢者のQOLと総入れ歯

総入れ歯の患者さんの大多数は高齢者です。したがって加齢による様々な全身的・局所的変化が問題となっています。また、学習能力や適応能力の低下が認められるため、新しい入れ歯を作ってもすぐにはうまく噛めないことが多いと思います。さらに、身体的な理由から通院回数を多くとることも難しくなりがちです。

近年、高齢者が増加の一途をたどっているなか、そのQOL（クオリティー・オブ・ライフ＝生活の質）の確保が叫ばれています。一般に高齢者が充実した生活を送るための条件として身体的・精神的健康の確保、経済的基盤の安定、社会の変化に適応しつつ人生を楽しむ能力をもつこと、家族・近隣社会・職場などにおいて共感できる人間関係が形成されていることなどがあげられています。これらを満たすためには、毎日の楽しい食事と会話のある日常生活こそが基本的な因子であり、これらの根源である口や顎の健康と正常な機能の維持・管理が大事になります。このためには、口のなかで安定する形態と、顎や筋肉と調和した噛み合わせをもつ総入れ歯を作って使いこなすことが重要です。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 教授 寺田 善博

